

社協たより

第174号

2017.6.1

点字・墨字版あります

【編集・発行】☎社会福祉法人 直方市社会福祉協議会 〒822-0034 直方市大字山部616-145
TEL0949(23)2551 FAX0949(23)2552
e-mail:nogatashakyo@fuga.ocn.ne.jp HP:http://www.nogatashakyo.org/



平成 29 年 3 月 19 日に実施した第 42 回直方市ボランティアのつどいで「熊本地震の被災地で障害者が置かれた状況とは！」と題した講演を聞く参加者（P2参照）

もくじ

- 第42回直方市ボランティアのつどい … 2
- 地域の輪（ひだまりの会）
情報の広場（西鉄グループの精神障害者割引開始、避難準備情報の名称変更）
- 図書室（夫の悪夢） … 3

- お知らせ（第42回よこいと運動会／学校に行かない子どもを支える会／障がい者の居場所づくり実行委員会）

ご寄付 …………… 4

kantera

カンテラ



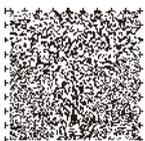
「福智山讃歌」高らかに
感動のひびき

ふるさとの自然や歴史を謳った合唱組曲「福智山讃歌」のコンサートが直方文化連盟（中村幸代会長）主催で4月1日、直方市のユメニティのおがたであり、地元の合唱団120人により披露された。8章構成の福智山讃歌がオーケストラの演奏で全曲が歌われたのは7年ぶり。福智山讃歌（上野山剛さん作詞、夏秋充さん作曲）は、同連盟の創立45周年（2001年）を記念して公募で作られた。

今回のコンサートには市民からも合唱参加者を募り、練習を重ねてきた。この日は直方青少年合唱団も加わり筑豊フィルハーモニー管弦楽団の演奏で熱唱。超満員の客席から大きな拍手と声援が送られた。舞台、客席、スタッフを大きく響き包んだ感動は収まらず、忘れかけた

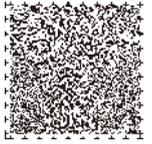
ふるさとの自然と温かい地域の連帯を…。客席は目頭を熱くしていた。

（広田）



第42回直方市ボランティアのつどい

熊本地震の被災地で障害者が置かれた状況とは!



1歳の時、小児麻痺（ポリオ）にかかり、障害者歴が60年とおっしゃる東俊裕（ひがし・としひろ）さん。弁護士、熊本学園大学社会福祉学部教授、被災地障害者センターくまもと事務局長と数々の経歴をお持ちです。平成29年3月19日に行った講演の内容から震災時の障害者の状況及びそこから見えた課題から私たちが日頃意識しておく大切なことについて学びました。

東日本大震災時の障害者の状況

障害者権利条約の締結に必要な国内法の整備のための、内閣府障がい者制度改革推進会議担当室長の時に、何度も東日本大震災の被災地に訪れました。避難所で、障害者を見かけないし、話題にも上がらなかったことが印象に残っています。

障害者の「SOS」を手助け

東日本大震災の障害者のことが胸中にあり、熊本も同じような状況になることを懸念していました。発生直後に熊本学園大学のバリアフリーの講堂を、学園内で協議して、独自に避難所として開放し、医療や介護体制を学生ボランティアの力添えで運営しました。

次に障害者の困り事を手助けするため、4月20日に県内の障害者団体が集まり「被災地障害者センターくまもと」を発足しました。

障害者の相談を受け付ける連絡先を記載したピラを配布すると、すぐに障害者からの「SOS」が、多い時で1日60

件届きました。あらゆる困り事（介護者の手配、住居探し、片づけ、引越など）についてです。緊急時から復興期に至る各段階でニーズも変化しながら、延べ500人の要望の解決に向けて県外ボランティアと共に取り組んできました。

一般避難所での状況と

支援の網の目から こぼれ落ちる障害者

一般避難所で起きた障害者種別毎の一例です。聴覚障害者→口頭だけでは配給情報が分からなかった、視覚障害者→混雑した館内では、夜間トイレへの移動中に寝ている人を踏んでしまった、身体障害者→バリアフリーでないためトイレにも行けなかった、発達障害者→慣れない環境でパニックになった、本人が配給に並べないため、介護者が事情を説明しても2人分は不可だった・などです。そのため、利用が難しかったりして、多くの障害者は安心して長期間避難することは困難でした。では、どこに行ったかという

と仕方なく、崩れかけた家や

車中泊、あるいは親戚宅を転々としていました。

一般避難所は、緊急物資や専門家を含む人材や情報の拠点になります。一般の方は避難所に居て見える形になるが、避難所に居なくてどこに居るのか把握されていない障害者は、見えない存在になっていました。障害者は支援の網の目からこぼれ落ちていきました。

見えてくる課題

復興期に入り仮設住宅は、スロープがついた住宅はあっても、入口や浴室の狭さや段差だらけ、2次避難所の福祉避難所は、実態は入所施設で、職員も被災し、満杯の入所者の支援で手一杯で、外からの受け入れは困難でした。そのことから、一般避難所に障害者や高齢者が避難生活を送れるように、地域の人が避難所を点検して、改善に向けていくことが重要です。

一般避難所では、情報伝達手段は張り紙、パニックになった人には、小部屋を用意、段差は簡易スロープ設置など障害者差別解消法の過度の負担にならない範囲で合理的配慮を行う必要

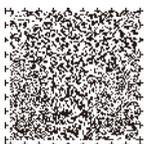
があるのではないか。いでしょか。

講演会を拝聴して

地震後に、障害者に焦点をあてた報道が少ないため、障害者ほどのような状況に置かれていたのかとても気になっていました。災害弱者について東日本大震災を教訓に、問題点が改善されていることを念じていましたが、思っていた以上の障害者の過酷な状況に言葉を失いました。

ある障害者から「被災地障害者センターくまもと」での相談中に、「自分は見捨てられたと思うていたが、真心のこもった支援で助けられた」と涙ながらにお礼を言われたそうです。障害があるが故に自分の力ではいかんともしがたい中で、手を差し伸べられたことは、心細い中でどれだけ有難かったのか、災害弱者に寄り添った支援の必要性を感じました。

また、災害に備えて、自助の部分では、準備してある避難袋の点検やご近所との良好な関係作りなど出来ることを行っていくかと思いました。（藤田）



地域の輪

地域に根ざした独自の
福祉活動をご紹介します。

遊びに来ませんか！お話しませんか！ ひだまりの会

「ひだまりの会」をご存知ですか？知的障害者の支援をして活動歴は26年程にわたり会員は12名です。

1990年、地域の学校へ行きたいという子どもたちの訴えを出発点に出来た会が「障害児の普通校通学をすすめる連絡会」です。その9年目にたまり場を作り、これを機に会の名称を「ひだまりの会」とし、会を発展させていきたいと新たな思いで活動してきたそうです。

発足当初からのメンバーであり、ご自身が知的障害のある長男をもつ田中さんは、「会の発足当初の社会では、障害を理由に分ける風潮がありました。自分は、普通の子と一緒に生きて欲しい」と思い、普通の小学校に

入れてもらいました。1浪はしたけれど高校も卒業しました。本人



毎月第4水曜日10時～12時の間は総合福祉センターで活動しています。

は辛いことにも遭ったと思います。ですが、これからも社会の一員として生きて欲しいと思っています。」と話して下さいました。

メンバーの皆さんが心掛けていることは、知的障害者を家族や親戚にもち、悩んでいる人の心に寄り添えるよう傾聴を主体に、雑談でも、どんな話でも聞かせてもらっていることだそうです。

社会福祉協議会の行事には、積極的に参加し、会の存在をもっともっと多くの人に知ってもらい、お役に立ちたいとのことでした。(石黒)

情報広場の

精神障害者割引の導入
について
西日本鉄道株

西鉄グループでは、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方を対象とした、西鉄電車・バスの運賃割引を次の通り実施しています。

- 運用開始日
平成29年4月1日(土)
- 割引対象者
精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方
- 割引適用範囲
普通旅客運賃、回数旅客運賃、定期旅客運賃(通勤)
- 割引率
精神障害者保健福祉手帳の等級に応じた割引を行います。
- ご利用方法
○手帳の確認による割引
○障害者用nimocaカードの利用による割引

問い合わせ
西鉄お客さまセンター
TEL 0570-000110

避難準備情報の名称が
わかりました。

平成28年の台風第10号による水害では、高齢者施設において避難準備情報の意味するところが伝わっておらず、適切な避難行動がとられなかったことから、高齢者等が避難を開始する段階を明確にするなどの理由で、次の通り名称が変更されました。

- 変更前
避難指示
避難勧告
避難準備情報
- ←
- 変更後
避難指示(緊急)
避難勧告
避難準備・高齢者等避難開始

参加者・ボランティア募集

第3回日帰りハイキングを開催します。

- 日時
平成29年8月6日(日)9時半～16時
- 行き先
直方歳時館・多賀公園(直方市)
- 参加費
無料
- 主催
第3回日帰りハイキング実行委員会・ボラ連青年部(直方市)
- 申し込み・問い合わせ:
久保直幸(実行委員長)
TEL 090-5924-0603

図書室

「夫の悪夢」

著者 藤原美子

発行所 文芸春秋

直方市図書館所蔵



「でも偉かったわね、60を過ぎてダイビングに挑戦したのですもの」と私が褒めると「バカ、武士にとっては名誉は命より重い。やりたくないが敵前逃亡したら、お前に一生弱虫のレッテルを貼られる。そこで決心した。たとえ死しても名誉は守ると。どうだ立派だろ、参ったか」と威勢よく言った。(本文より)

私はそこで、おそらく世間の人々が抱いているであろう、夫、藤原正彦の「武士道を唱え、どんな場面でも毅然とした態度を貫く人物」といったイメージをとことん覆す話を書いてしまっているような気がしてならない。沽券とか意地とか、まったく深刻ではなく、さりげなく温かい。藤原教授夫人が綴る心温まる、家族のエッセイ集。

(広田)

障害者、高齢者、子ども、ボランティア誰もが力を合わせて 第42回よこいと運動会開催

よこいと運動会は、障害や年齢に関係なく、誰もが楽しめる運動競技を通して、皆が“よこ”につながることを大切にしたい運動会です。

■日時 平成29年6月4日(日) 10時から15時頃

■会場 直方市体育館

■無料送迎バス

- ・直方駅発 1便 8時50分 2便 9時20分
- ・体育館発 15時頃(全日程終了後)

■注意

- ・体育館シューズとシューズ入れをお持ちください。
- ・昼食が必要な方は各自ご持参ください。

■問い合わせ 直方市社会福祉協議会
Tel 0949 (23) 2551

障がい者の居場所の設置を求める署名のお願い 障がい者の居場所づくり実行委員会

‘障害者相談支援センターーぶる’が昨年3月で閉所し、障害者が自由に過ごせる居場所(フリースペース・7番地)がなくなりました。

障がい者の居場所づくり実行委員会(委員長 三小田 静男)では、利便性が良い駅前や商店街の中への居場所の設置を求めて、直方市とも話し合いをしています。併せて署名活動をしています。

皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

■問い合わせ

直方市山部 616-145 直方市総合福祉センター内
障がい者の居場所づくり実行委員会事務局
(Tel 0949-23-2551) まで

囲碁部会員募集のお知らせ!

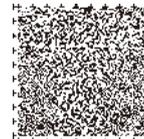
直方市総合福祉センター囲碁部では、会員を募集しています。

■活動日時 月曜～土曜
■時間 9:00～16:30
■問い合わせ 直方市総合福祉センター
Tel 0949 (24) 9030

「山開き」の季節。山の
思い出の一つが、私の家族
と車いすの友達5人で久住
山を目指し、長者原から出
発して「すがもり小屋」ま
で登ったことだ。
そこで、私たちは「愛の
鐘」をならし、前方に三俣
山、眼下には砂千里の感動
は忘れられない。
あれから20年余り、彼女
は、今もこれからも大切な
友達だ。
(田中)

編集後記

不登校・ひきこもり を抱える家族相談



不登校・ひきこもりの子ども
たちを抱えた家族経験者が、悩みや気持ちをお聞
きします。抱え込まずにお話ししましょう。

■相談日:(いずれも水曜日)

6月21日 7月12日
8月9日 9月13日
10月11日 11月1日
12月13日 1月10日
2月21日 3月14日

■時間:10時30分から12時

■ところ:直方市総合福祉センター

(直方市大字山部 616-145)

■相談員:学校に行かない子どもを支える会

■問い合わせ:直方市社会福祉協議会

Tel 0949 (23) 2551

ご寄付ありがとうございます。

平成29年2月11日から平成29年5月10日
9件 合計金額 171,038円
(お名前は承諾された方のみ掲載、敬称略)

香典返し寄付金

- 上頓野 (故)藤田 京子
- 新町 (故)中村 幸雄
- 下新入 (故)河野 千鶴子
- 中泉 (故)藤村 慧
- 植木 (故)久吉 安枝
- 頓野 (故)小林 敏子
- 永満寺 三海 栄司
- 永満寺 (故)仲野 春子

●福地校区公民館

一般寄付金



前号
(第173号)
の訂正

前号の「情
報の広場」の
中でご紹介した、直方市民
生委員児童委員協議会「児
童部会」部会長 坂田幸作様
(新人校区)のお名前が正し
くは、坂田耕作様でした。
訂正してお詫びいたします。

